

# 中国語における<不可能>とモダリティ

勝川 裕子

## 1. はじめに

### 1.1 日本人中国語学習者の誤用例とエラーの特徴

まず、中国語の可能表現に関し、日本人中国語学習者がどのようなエラーを産出するか見てみよう。

以下の例(1)～例(4)に挙げる中国語は全て、可能補語で表現すべきところを助動詞の“能”で代用してしまう誤用例である。例(1)のように「1000メートル泳げない」の意味で“\*不能游一千米”としたり、例(2)のように「私は答えられない」の意味で“\*我不能回答”のように表現してしまう誤用例はもとより、結果補語や方向補語が導入された後でも、例(3)、例(4)のように“\*不能听懂”、“\*不能进去”としてしまうなど、日本人中国語学習者は可能補語を使って<不可能>を表すことがなかなかできない。

- (1) 私は 1000 メートル泳げない。  
\*我不能游一千米。(初級1年)
- (2) この問題は難しすぎて、私には答えられない。  
\*这个问题太难了，我不能回答。(初級1年)
- (3) 先生の話は、私は聞いても分からない。  
\*老师说的话，我不能听懂。(中級2年)
- (4) 寮の鍵をなくしてしまい、入ることができない。  
\*宿舍的钥匙丢了，我不能进去。(中級2年)

このように、中国語の可能表現は日本人学習者にとって習得が困難であるとされるが、こ

れはとりもなおさず、中国語の可能表現の種類が多く複雑であることに起因している。

例えば、中国語では可能を表す助動詞ひとつをとっても、“会”、“能”、“可以”の 3 種類があり、同じ「泳げる」という事態を表すにも、どういう事由で泳げるのかを表現仕分ける。また、日本人学習者にとって習得が難しいものとして可能補語が挙げられるが、これは結果補語、方向補語をマスターした上で拡張的に表される形式であり、可能補語を使うべきところを先に導入された助動詞“能”で代用してしまうエラーがよく見られる。

#### 可能の助動詞

- ① <習得可能>の“会”
  - ・我会游泳。[私は泳げる。]
- ② <能力可能/条件可能>の“能”
  - ・我能游一千米。[私は 1000 メートル泳げる。]
  - ・我感冒已经好了，能游泳了。[私は風邪が治ったので、泳げるようになった。]
- ③ <許可>の“可以” (“能”)
  - ・这儿可以游泳。[ここは泳げる。]

#### 可能補語

- ① 結果補語からの拡張形式
  - ・老师说的话，我听不懂。[先生の話は、私は聞いても分からない。]
- ② 方向補語からの拡張形式
  - ・宿舍的钥匙丢了，我进不去。[寮の鍵をなくしてしまい、入ることができない。]
- ③ 特殊形式(/V 得了/、/V 得起/など)
  - ・这个问题太难了，我回答不了。  
[この問題は難しすぎて、私には答えられない。]

表 1 中国語の可能表現のヴァリエーション

日本人中国語学習者に共通して見られるエラーの特徴としては、上に挙げた例(1)～例(4)の誤用例のように、「可能補語が使えず、全て助動詞で代替してしまう」ことに加え、「不能 V (R) 」に<禁止>の意味がある理由が理解できない」ということが挙げられる。肯定形では「デキル」を表す“能”が、否定形になると、なぜ「デキナイ」ではなく「～してはならな

い」という禁止の意味が出てくるのか理解できないのである。

## 1.2 本稿のねらい

本稿では次の4点に的を絞って考察していく。

まず、可能表現の中でも特に<不可能>に着目し、中国語では<デキナイ>をどう表現するのかについて、誤用が多くみられる助動詞形式“不能 V(R)”と可能補語形式“V 不[R/了]”の違いを見ていく。次に、その中で助動詞“能”の否定形式に<禁止>の意味が含意される原因について考えてみる。そして、本論後半では、実際に学習者が可能補語を使えるようになるためには当該項目をどのように導入したら良いかを考察し、最後に文法項目としての可能補語の導入順序について再検討を行う。

## 2. <不可能>を表す表現形式

### 2.1 可能とは

<可能>に関する定義については、これまで多くの研究者が様々な定義付けを試みている(寺村 1982、渋谷 1986、森田 1989 など)が、概ね共通する解釈としては「<可能>とは、何ごとかをする能力があること、または何ごとかをすることができる状態にあること」と定義することができよう。これはつまり、「能力がある」と、「実際にその能力を実行、実現することができる」ことを分けて考えなくてはならないことを示唆している。

英語では、過去における能力・可能のみを表わす場合、例(5)のように“could”と“was able to”の何れも用いることができるが、現実には何か単一の動作・行為をした場合、即ち実際にその能力を発現・実行した場合には、例(6)のように“He was able to solve the problem”のように表し、“could”は用いることができないとされている。

(5) He {could / was able to} ski when he was young. 【能力】

[彼は若い頃スキーができた。]

(6) He {\*could / was able to} solve the problem. 【能力】+【実行】

[彼はその問題を解決することができた。]

また、森田 1989:765 は可能と<意志性>に関し、「<可能>は<希望>の結論として存在し、

“……したい”→“……することができる”と意志的にとらえるところに特色がある」と述べ、「望ましい事態の実現」が動作主体の〈意志性〉と深く関わっていることを指摘している。例えば、次の例(7)「しばらく学校に行けない」というのは、「学校に行きたい」という意志がまずあり、それが実現しないことが〈不可能〉という形で表されている。また、例(8)の「\*懲りれる」が非文となるのは、悪い結果をもたらし、本人が当然避けようとする動作・状態を表す動詞は可能表現になりにくいためであると指摘されている(寺村 1982、呂雷寧 2006 など)。

- (7) 彼は明日から入院するので、しばらく学校に行けない。  
 (8) \*痛い目にあえば彼もきっと懲りれるだろう。

## 2.2 中国語可能表現における不均衡性と互換性

中国語の可能表現の使用実態については、刘月华 1980 が大規模調査をしており、次の表 2 はそれを荒川 1990 がまとめたものである。この表からも分かるように、補語 R (結果補語、方向補語) を伴う可能表現では、肯定形では助動詞が用いられる傾向にあるのに対し、否定形では圧倒的に可能補語を用いることが分かる。このような可能表現における肯定と否定の不均衡については、多くの先行研究において夙に指摘されている。

	/能VR/ <sup>1</sup>	/V得R/
肯定	155	88 (うち反語 29)
否定	4	1229
合計	159	1317

表 2 中国語における可能表現形式の使用分布(荒川 1990)

可能の否定形式の互換性については、魯曉琨 1993 が以下の 3 タイプに分けて考察している。まず一つ目に、i) “看不懂”[読んでも分からない]のように、可能補語形式のみが成立し、助動詞表現は非文となるケースで、次に ii) 互換性があり、共に〈不可能〉を表すケ

<sup>1</sup> /能 VR/、/V 得 R/ の R には結果補語、方向補語を含む。/能 VR/ は“能 VR”と“不能 VR”を、/V 得 R/ は“V 得 R”と“V 不 R”を表わす。以下、本稿でもこの表記に従う。

ース<sup>2</sup>が挙げられている。三つ目は、iii) いずれの表現形式も成立するが互換性はなく、助動詞表現が<禁止>を表すケースである。例(13)の“擦不掉”は「消せない」であり、“不能擦掉”は「消してはいけない」という意味に解釈される。

i) “V 不 R”のみ成立、“不能 VR”は非文

(9) 这本书我看不懂。[この本は読んでも分からない。]

\*这本书我不能看懂。

(10) 这座山太高，我爬不上去。[この山は高すぎて、私は登ることができない。]

\*这座山太高，我不能爬上去。

ii) “V 不 R”と“不能 VR”が置き換え可で、共に<不可能>を表わす

(11) 在沙漠里养不出牡丹来。[砂漠では牡丹は育たない。]

在沙漠里不能养出来牡丹。[同上]

(12) 如果信巫不信医，病是治不好的。

[迷信を信じて医学を信じないと、病気は治すことができない。]

如果信巫不信医，病是不能治好的。[同上]

iii) “V 不 R”、“不能 VR”は共に成立するものの意味が異なる

(13) 黑板上的字擦不掉。[黒板の字は拭いても消せない。]

黑板上的字不能擦掉。[黒板の字は消してはいけない。]

(14) 这些菜卖不光。[これらの野菜は売り切れない。]

这些菜不能卖光。[これらの野菜は売り切ってはいけない。]

(例(9)～例(14)は魯曉琨 1993 より引用)

注目すべきは、魯曉琨 1993 では取り上げられなかった、「不能 VR」のみが成立し、“V 不 R”が非文となる<不可能>のケースである。上で挙げた表2では“不能 VR”はわずか4例であるものの、この形式でなければならない理由があるはずである。以下では“(不)能 VR”がどのような統語的制約のもとで用いられ、如何なる意味特徴を有するかについて考察していく。

<sup>2</sup> これに該当する例として、例(11)、例(12)が挙げられているが、筆者のインフォーマント調査では、やはり助動詞表現は若干不自然であると指摘があった。

### 2.3 /能 VR/、/V 得 R/における統語的制約と意味特徴

郭春貴 2014 でも指摘されているように、“把”構文は可能補語/V 得 R/と相性が悪い。次の例(15)の“\*把老师的作业做不完”は非文であり、“把”構文を用いる場合は、“不能把老师的作业做完”としなくてはならない。“把”構文は対象に対してどのような処置を行うのかを述べる構文であり、そこには必ず「こうしてやろう」という発話者の意図が背景にある。つまり、/V 得 R/は話者の意図を読み込む状況の〈不可能〉と相性が悪いことが分かる。

(15) \*这个星期我把老师的作业做不完。(郭春貴 2014)

→这个星期我不能把老师的作业做完。

[今週、私は先生の宿題をやり終えることができない。]

(16) \*我一个小时把这个房间收拾不完。

→我一个小时不能把这个房间收拾完。

[私は一時間でこの部屋を片付け終えることができない。]

また、例(17)、例(18)に挙げるように、“只要”[～しさえすれば]や“只有”[ただ～だけ]のような成分が文中に現れる場合、可能補語/V 得 R/より助動詞表現/能 VR/を好む傾向が見られる。これに関して、杉村 1979 は「主従復文の主節においてなされる判断は、話者の思考論理の帰結と言える。ゆえに、いきおいそこには話者の心情を直接的に反映する要素が現れやすくなる」と指摘しているように、やはり/能 VR/は/V 得 R/よりも発話者の心理的動きをより強く表現できる形式であることが分かる。

(17) “学中国话难不难?” “不太难，只要多听多说，就一定能学好。”(杉村 1979)

[「中国語を学ぶのは難しい?」「そんなに難しくないよ、たくさん聞いてたくさん話しさえすれば、きっとマスターできるよ。」]

(18) 我焦灼地向她叫喊，用我久已不用的语言。只有我和她能够听懂的语言。

《人啊，人》(荒川 1990)

[私はひどく焦って彼女に向かって叫んだ。久しく使わなかった言葉を使って。

私と彼女だけが聞いて分かる言葉で。]

/V 得 R/は状語成分との相性も悪く、やはり/能 VR/で表現される。次の例(19)の“高高

高兴兴地做完”[喜んでやり終える]や例(20)の“详细地写”[詳細に書く]のように、動作行為の有様を描写する状語は、動作をどのように行うのかという主体の意図を表す部分であり、そこには動作行為に対する能動的な姿勢が含意されている。

(19) \*你高高兴兴地做得完这件事吗?(杉村 1995)

→你能高高兴兴地做完这件事吗?

[君は喜んでこれをやり終えることができるか?]

(20) \*这件事我详细地写不出来。

→这件事我不能详细地写出来。

[この件については私は詳しく書くことができない。]

また、例(21)“\*出不去散步”と例(22)“\*进得去休息”のような表現が非文になる理由として、杉村 1992 では可能補語の否定作用域がV2 に及ばないためであると指摘<sup>3</sup>しているが、これを本稿の視点から捉えなおせば、連動文と可能補語が共起し得ないのは、連動文のV2 がV1 の動作目的を表すためであり、「V2 するためにV1 する」といった意志的な行為全体の実現の可否を表すには、/能VR/を用いてモーダルに表現しなければならないのである。

(21) \*他病刚好，出不去散步。(刘月华 1980)

→他病刚好，不能出去散步。<sup>4</sup>

[彼は病気が良くなったばかりで、外に出て散歩をすることができない。]

(22) \*那个教室没人，我们进得去休息。(郭春贵 2014)

→那个教室没人，我们能进去休息。

[あの教室は人がいないので、入って休めます。]

### 3. モーダルな/能 VR/と非モーダルな/V 得 R/

<sup>3</sup> 『連述構造』と呼ばれる動詞句連鎖の述部全体に否定が作用しなければならないのに、可能補語の否定形には述部全体を否定の作用域に収めるだけの力が備わっていない(杉村 1992 : 216)

<sup>4</sup> “他病刚好，不能出去散步。”は、「外に出て散歩をすることができない」という動作実現の否定のほかにも、「外に出て散歩をしてはいけない」という禁止の意味にも解釈でき、多義的である。

### 3.1 <デキナイ>理由

ここまで補語を伴う可能表現について、/能 VR/と/V 得 R/それぞれの形式の統語的制約とその意味特徴を見てきたが、以下のようにまとめることができる。

まず、“不能 V(R)”の形式で表現される<不可能>とは、意図性をもつ、主観的な不可能であり、物理的には可能であっても、意図して「(よう)できない」「やるわけにはいかない/ようやらない」という<不可能>である。例えば、次の例(23)では、「助けようと思えばできないこともないが、違法だから助けるわけにはいかないのだ」という発話者の意図が窺える。そしてこれが他者(特に第二人称)に向かうと、例(24)、例(25)のように、「許されない」「ダメだ」というように<不可能>から<不許可>、<禁止>へと意味が変化していく。このように“不能 V(R)”は非常にモーダルな表現形式であり、例(23)～例(25)を可能補語“V不[R/了]”に置き換えて表現することはできない。

(23) 这是违法的事情，我不能帮你的忙。( ?帮不了)

[これは違法な事だから、私はあなたを助けることはできない。]

(24) 法律规定，十八岁之前不能抽烟。( \*抽不了)

[法律の規定では、18歳以下はたばこを吸うことはできない。]

(25) 这盘菜你不能吃完，要留一些给我。( \*吃不完)

[この料理は全部食べてしまってはダメだよ、私に少し残しておいて。]

次の例(26)は、“不能 V(R)”形式がもつモーダルな特徴を如実に表している。テレビドラマ《步步惊心》の台詞であり、病院で中絶すると言い張る娘と母親のやり取りであるが、娘の台詞では“不能”が畳み掛けるように使われている。このような第一人称につく“不能”は、単に動作が実現できないという<不可能>を表すものではなく、自らに課す<不許可>、<禁止>という発話者本人の強い意志を読み取ることができるであろう。

(26) (病院にて。中絶すると言い張る孟心怡とそれを止める母親との対話)

孟母：“你不能做手术。来，跟我回去。”

[孟心怡の母：「手術してはダメよ。さあ、私と帰るのよ。」]

孟心怡：“我不能走！这个孩子我不能要，他不能留下来！我不能回去！”

[孟心怡：「帰らないわ！この子は産むわけにはいかないの、産んじゃダメなの！



私帰らないから!」] テレビドラマ《步步惊情》

一方、“V 不[R/了]”を用いて表される〈不可能〉とは、「話し手の打消しの意向を除いた、事実としての不成立」(大河内 1980)であり、たとえそうしたくても実際に実現することができないという客観的な〈不可能〉を表す。発話者の〈希望〉の下に、それが残念ながら叶わない、実現できないという〈不可能〉は、可能補語“V 不[R/了]”で表すのがふさわしく、モーダルな表現である助動詞表現とは対照を成す。例(27)は翻訳したくても能力が不足できない、実現不可を表しており、例(28)も同様に解釈することができる。また杉村 1991 の指摘にもあるように、“V 不[R/了]”形式は例(29)のように真実を言うことを旨とする諺や格言などでもよく用いられる。このように“V 不[R/了]”は非モーダルな表現形式であり、例(27)～例(29)を“不能 V(R)”に置き換えて表現することはできない。

(27) 这英文太难了, 她(想翻译也)翻译不了。(\*不能翻译)

[この英文は難しすぎる。彼女には(訳そうにも)訳せない。]

(28) 我脚疼, 一个小时走不了五公里。(\*不能走)

[足が痛くて、一時間で5キロは歩けない。]

(29) 兔子尾巴, 长不了。(\*不能长)

[兎の尻尾だ、長くはなれない。→長続きしない。]

### 3.2 両表現形式の語用論的特徴

/能 VR/と/V 得 R/のこのような意味特徴の相違は、それぞれの形式が用いられる場面の相違にも反映される。魯晓琨 2014 の指摘によると、次の例(30A)のような依頼を拒絶する場面において、例(30Bab)はともに文法的に問題なく成立するにも拘らず、実際のコミュニケーションでは、例(30Ba)の“我帮不了”が選択されることが多い。これは「お手伝いしたいのは山々ですが、あいにく…」といった、自分の意思とは離れたところに手伝えない原因を見出そうとするからであり、これを例(30Bb)“我不能帮”とすると、「私はよう手伝いません」と自分の意志を以って手伝えないと宣言するニュアンスを伴うことになる。

(30) A 你能帮我这个忙吗?

[これ手伝ってもらえますか?]

B a 我帮不了。[手伝えません。]

b 我不能帮。[同上]

(鲁晓琨 2014)

また、次の例(31)、例(32)では同じ動詞を用いて異なる形式の<不可能>が表現されており、面白い対照をなしている。例(31a)の“不能吃”は「残り物を食べることは、物理的には可能(食べようと思えば食べられないこともない)であるが、食べることはできない」、つまり「食べてはいけない」という読み手に対する語り手の主観的<禁止>表現であるのに対し、例(31b)の“吃不得”は、「栄養素が失われ、細菌や亜硝酸塩が発生する」など科学的な根拠に基づいて、客観的に判断しても「食べてはならない」ことが述べられている。同様に、例(32)は“不能碰，碰不得！”と形式を変えて「できない」が繰り返されているが、この表現の修辞効果について杉村 1991:157 は、「主観上不可能(“不能碰”)から、實際上不可能(“碰不得”)へとたたみかけることによって、老人の心情が怒り恐れから絶望へと変わるさまを映し得ている」と指摘している。

- (31) 隔夜菜 a不能吃。隔夜营养素会严重损失，剩菜中有大量细菌，而且亚硝酸盐含量很高。试验室的测试报告显示，出锅 24 小时后的剩菜 b吃不得。

[www.google.com/ig/redirectdomain?brand=SNJB?bmod=SNJB](http://www.google.com/ig/redirectdomain?brand=SNJB?bmod=SNJB)

[前日の残り物は食べてはいけない。翌日になると栄養素が著しく失われ、残り物の中には大量の細菌がいるだけでなく、亜硝酸塩の含有量も高い。実験レポートでは、できあがりから 24 時間たった残り物は食べてはいけないと示されている。]

- (32) 不成！那碰不得呀！(对陈奶奶)叫他们别碰着那土墙！那寿木盖子是四川漆！

a不能碰，b碰不得！《北京人》(杉村 1991 より引用。体裁は引用者による)

[いかん、それはぶつけることはできん。[陳に向かって]あいつらに土壁にぶつけないように言え、あの棺桶のふたは四川漆なんだ、ぶつけてはならんのだ、ぶつけることはできんのだ。]

例(31)、例(32)はいずれも“不能 V”、“V 不得”の順に<不可能>な事態が描かれている。両例文における ab はいずれも同義的ではあるものの、事実的、客観的な<不可能>を後置させることにより、主観的にはもちろんのこと、客観的に判断してもやはり不適切である、許

されない、と相手に対しより説得的に V することを禁ずるのである。

## 4. 導入順序についての再検討

### 4.1 中国語テキストにおける可能表現の導入状況

ここまで見てくると、モーダルな可能表現である助動詞“能”はもちろん、非モーダルな可能補語も〈不可能〉を表す際には欠かせない表現形式であることが分かるが、本論冒頭で述べたように、可能補語の習得は中級レベルになっても芳しくない。

中国語テキストにおける可能補語の導入順序について調べてみると、多くの教科書において、まず「可能の助動詞」が導入され、その後「結果補語/方向補語」が続き、教科書の最後でやっと「可能補語」が導入されている。<sup>5</sup>中には可能補語を扱わない教科書も存在し、このような中で“\*老师说的话、我不能听懂。”[「先生の話は聞いても分かりません。」の意]のような誤用が大量に生まれ、「定着」していく。

文法項目の導入順序としては、「難易度の低い項目」から「難易度の高い項目」の順に導入することが一般的であるが、習得難度の認定は存外に難しい。また、「難易度低→難易度高」の導入順序が外国語学習において果たして本当に効果的であるかについても実証しなくてはならない。しかし現時点の中国語教育では、これらに関する実証データは未だ

<sup>5</sup> 2015年度名古屋大学において使用している中国語初級教科書の導入順序は以下の通り。いずれも姚艶玲 2009の調査まとめにあるように「結果補語/方向補語→可能補語」の順に導入されている。これに加え、可能の助動詞“会、能、可以”は各種補語よりも先、比較的早い段階に導入されていることが分かる。

	可能の助動詞	結果補語	方向補語	可能補語
『ちからになる中国語』 (全13課)	第6課	第11課	第9課	第12課
『みんなで話す中国語』 (全13課)	第6,7課	第8課	第12課	第13課
『さあ、中国語を学ぼう！会話・購読』 (全15課)	第9,10課	第13課	第14課	第15課
『1冊めの中国語 会話クラス』 (全15課)	第9課	第10課	第12課	—
『チャイニーズガーデン』 (全12課)	第6課	第9課	第8課	第10課
『好きです！中国語』 (全12課)	第4課	第7課	第8課	第9課

存在せず、難易度判定に関しては複数の基準が提起されてはいる<sup>6</sup>ものの、各基準間の優先度や相互関係については言及されておらず、教授者の経験的直感に基づいて判定されているのが現状である。

#### 4.2 可能表現の導入に関する試案

このような状況に鑑み、鈴木・Zhang2014 は可能補語の導入順序について、「投射モデル」<sup>7</sup>の適応可能性を含んだ指摘をしており、結果補語/方向補語よりも先に可能補語を教えた方が学習者にとってメリットが大きいのではないかと予測している。つまり、結果補語/方向補語は可能補語より習得難度が高い可能性があると考えるのであるが、そのように考える根拠として、可能補語が「より少ない前提条件で導入可能であること」<sup>8</sup>、「統語論上、肯定形式と否定形式が対称性を保っていること」の 2 点が挙げられている。

鈴木・Zhang2014 のこの予測は、パイロット調査の段階であり実証待ちであるが、これが実証されれば、結果補語や方向補語の導入を待つことなく可能補語を導入することができ、〈不可能〉の世界に欠かせない「非モーダルな」可能補語形式を可能の助動詞とほぼ同時に導入できると考えられる。先の表 2 の使用分布を見ても明らかのように、可能範疇において非モーダルな〈不可能〉を表す表現は圧倒的に使用頻度が高く、これを看過するべきではない。とはいえ、可能補語/V 得 R/が結果補語/方向補語(R)を「前提条件」として統語的に形成される形式である以上、R に対する意味論的・統語論的理解を経ずに可能補語/V 得 R/を導入するのは、学習者に余計な負担を強いることになりかねない。

そこで、筆者は可能補語表現の導入に関して以下のような試案を提起したい。

本論冒頭で挙げた誤用パターンは、可能の助動詞が導入された直後から見られ始める。この時点ではまだ結果補語/方向補語は導入されていないものの、以下の例(33)、例(34)

<sup>6</sup> 文法項目の難易度認定の基準としては、①習得過程の時期、②使用頻度の高低、③学習者自身で学べる可能性など種々の観点から判定することが可能である。興水 2005 では、難易度の高いものとして「習得過程が遅いこと」、「使用頻度が低いこと」、「使用を避けるもの」、「誤文の出現頻度が高いもの」、「誤文の形式が化石化しやすいもの」が挙げられており、さらに日本人中国語学習者についていえば、「漢字漢語の知識」や「母語である日本語との対比」、「(学習者にとって既習外国語である)英文法の呪縛の有無」なども難易度の判定基準として設定できると指摘されている。

<sup>7</sup> 第二言語習得で提唱される投射モデル(projection model)では、有標性の高い(より基本的ではない、より難易度の高い)文法項目 x,y を先に学習することで、有標性の低い(より基本的、より難易度の低い)文法項目 z の習得をかえって促進させることが指摘されている。

<sup>8</sup> 結果補語/方向補語の導入には、アスペクト助詞“了”と否定辞“没(有)”の理解が前提となるが、可能補語は否定辞“不”が学習済みとなっていれば、“了”や“没(有)”が未習であっても導入が可能である。つまり、可能補語は“了”も“没(有)”も導入時の前提条件とならない。詳細は鈴木・Zhang2014 を参照。

は、可能補語の否定形式“V 不了(buliao)”[～することができない]で表現しなければならない。

(33) \*我不能游一千米。(例(1)再掲)  
→我游不了了一千米。[私は1000メートル泳げない。]

(34) \*这个问题太难了，我不能回答。(例(2)再掲)  
→这个问题太难了，我回答不了。  
[この問題は難しすぎて、私には答えられない。]

“V 不了(buliao)”は、結果補語や方向補語を前提としない(R を伴わない)可能補語の否定形式であるため、結果補語/方向補語が未習であっても導入可能である。

このように、可能の助動詞/能 V/とほぼ同時(もしくは直後)に可能補語/V 得了/、中でも特に否定形式を優先的に導入することで、非モーダルな<可能>の概念の早期定着を図ることが可能となる。そして、結果補語/方向補語が導入された後、改めて可能補語/V 得 R/を段階的に導入し、可能補語全体の体系的把握に努めてはどうだろうか。実際、筆者のパイロット調査でも、次の例(35)～例(38)に挙げるような中国語作文問題において、“V 不了”を先に導入したクラスのほうが、通常の導入順序を採用したクラスよりも正答率が高く、可能補語の習得度が高いという調査結果が得られている。また、“不能 V”と“V 不了”を対照的に捉えることで、学習者は例(37)、例(38)の“不能 V”が「禁止」義となることをスムーズに理解するようである。

- (35) 明日私は用事があるので、行けない。  
明天我有事，去不了。(？不能去)
- (36) 電車が皆止まってしまい、多くの人が帰宅できなかった。  
电车都停了，很多人回不了家了。(？不能回家了)
- (37) この教室はインターネットを使えない。  
这个教室上不了网。(＃不能上网:[インターネットを使ってはいけない])
- (38) 私は英語は教えられないが、日本語は教えられる。  
我教不了英语，不过能教日语。(＃不能教英语:[英語を教えてはいけない])
- (例(35)～例(38)はいずれも郭春貴 2014 より一部改変)

但し、V 自身に量の概念が含まれ、且つ量的意味を含意するフレーズと共起する場合、“V 不了”は「～しきれない」という動作の完了・完結の不可能を表すという点に留意しなければならない。例えば、次の例(39)、例(40)は共に“吃不了”が用いられているが、例(39)が単純に動作の実現の可否を述べているのに対し、例(40)は「食べる」という動作を完了させることができないことを表す。

(39) 她牙疼，吃不了饭。[彼女は歯が痛くてご飯が食べられない。]

(40) 这么多菜，我们吃不了。[こんなにたくさんの料理、私には食べきれない。]

(例 (39)、例 (40) は王还主编 1995 より引用)

“V 不了”のこのような特徴は、学習者がこれまでとは異なる新たなエラーを産出する原因となる可能性があり、慎重に習得調査を進めていく必要がある。今後は、他の文法項目(例えばアスペクト助詞“了”など)の導入順序も考慮に入れながら、本試案の妥当性について引き続き調査していきたいと考えている。

#### 可能表現の導入に関する試案

- ① 可能の助動詞/能 V/とほぼ同時(もしくは直後)に可能補語/V 得了/(特に否定形式)を導入することで、非モーダルな<可能>の概念の早期定着を図る。
- ② 結果補語、方向補語が導入された後に、改めて拡張形式としての可能補語/V 得 R/を段階的に導入し、可能補語全体の体系的把握に努める。

#### [参考文献]

荒川清秀 1990 「中国語の可能表現—/能 VR/と/V 得 R/—」、『愛知大学外国語研究室 紀要』第 14 号。

郭春貴 2014 『誤用から学ぶ中国語 続編 1』、白帝社。

興水優 2005 『中国語の教え方・学び方—中国語科教育法概説—』、日本大学文理学部叢書。

刘月华 1980 <可能补语用法的研究>、《中国语文》 第 4 期。

- 魯曉琨 1993 「「不能 VR」と「V 不 R」」、『中国語学』 240 号。
- 魯曉琨 2014 「“V 得/不了”与“能/不能 VP”」、『現代中国語研究』 第 16 期、朝日出版社。
- 森田良行 1989 『基礎日本語辞典』、角川書店。
- 大河内康憲 1980 「中国語の可能表現」、『日本語教育』 41 号。
- 小野秀樹 1991 「中国語における可能表現の“否定”―“他動性”を通しての「不能 VR」および「V 不 R」の考察―」、『中国語学』 238 号。
- 呂雷寧 2006 「使用範囲から見た日中両言語の可能表現」、『ことばの科学』 第 19 号、名古屋大学言語文化研究会。
- 渋谷勝己 1986 「可能表現の発展・素描」、『大阪大学日本学報』 5。
- 杉村博文 1979 「能学好・学得好・能学得好」、『日本語と中国語の対照研究』 第 4 号、日中対照研究会。
- 杉村博文 1991 「可能を表す助動詞と補語」、『中国語学習 Q&A』、大修館書店。
- 杉村博文 1992 「可能補語の考え方」、大河内康憲編 『日本語と中国語の対照研究論文集(上)』、くろしお出版。
- 鈴木慶夏・Yanyin Zhang 2014 「中国語補語の導入順序についての再検討―投射モデルの適応可能性」、『日本中国語学会第 64 回全国大会予稿集』。
- 寺村秀夫 1982 『日本語のシンタクスと意味 I』、くろしお出版。
- 王还主编 1995 《对外汉语教学语法大纲》、北京语言学院出版社。
- 安本真弓 2007 「可能表現の否定形に関する一考察―日本語との比較から―」、『日中言語対照研究論集』 第 9 号。
- 姚艷玲 2009 「日本人中国語学習者による「補語」の習得に関する横断的研究」、『中国語教育』 第 7 号。
- Zobl,H.1983 Markedness and the projection problem. *Language Learning*, 33, 293-313.
- Zobl,H.1985 Grammars in search of input and intake. In S. Gass & C. Madden (Eds.) *Input in second language acquisition*, Newbury House, 329-344.

#### [教科書出典]

- 『ちからになる中国語』、児野道子・鄭高咏著、金星堂。
- 『みんなで話す中国語』、洪潔清著、白帝社。
- 『さあ、中国語を学ぼう！会話・購読』、竹島毅・趙昕著、白水社。

『1 冊めの中国語 会話クラス』、劉頴・喜多山幸子・松田かの子著、白水社。

『チャイニーズガーデン』、鄧萍・安力著、白帝社。

『好きです！中国語 花子の HSK2 級チャレンジ』、虞萍・謝平・瀨邊啓子・星野幸代・楊韜  
著、中国書店。